

第110回 品質管理シンポジウム



アクシアル リテイリング(株)
代表取締役社長
原 和彦 氏



panda・Flight・Academy(株)
顧問
田中 龍郎 氏



パナソニック(株)
代表取締役 専務執行役員
コネクティッドソリューションズ社 社長
樋口 泰行 氏



中央大学 教授
中條 武志 氏



三菱電機(株)
特別顧問
山西 健一郎 氏



トヨタ自動車九州(株)
代表取締役社長
永田 理 氏

※新型コロナウイルスの感染拡大
防止策を徹底し、集合での参加
人数を限定し開催いたします。

集合・ライブ配信での同時開催! ※

価値創造・品質保証・安全確保に
寄与する組織文化をつくる
— 人の行動を変えるためのマネジメントとその実践 —

開催期日: 2020年12月3日(木)~12月5日(土)
会場: 大磯プリンスホテル

主催: 一般財団法人日本科学技術連盟
後援: 一般社団法人日本品質管理学会

趣 旨



中條 武志 氏

中央大学教授

第110回品質管理シンポジウム
主担当組織委員

組織や社会は巨視的に見れば多数の人から構成されるシステムであり、一人ひとりの行動がそのパフォーマンスに大きな影響を与えます。例えば、様々な事故や不祥事の事例を見ると、うっかり間違えた、まあ大丈夫だろうと意図的に守らなかったといった人の行動に起因するものが殆どです。また、使用者・利用者に感動を与える新しい製品・サービスが生まれた過程を見ると、その裏には必ず、顧客・社会の隠れたニーズを把握しよう、新たな価値を生み出そうと汗をかいた人の行動があります。その意味では、組織・社会のパフォーマンスを向上するには、構成員一人ひとりの行動を変えることが大切です。

しかし、社会が成熟するにつれて人の考え方・価値観が多様化し、人の行動を変えることは益々難しくなっています。「組織体質」「組織文化」という言葉が使われるようになってすいぶん経ちますが、一人ひとりの意識・態度・行動の総体としての文化を変えるにはどう取り組むのがよいのか悩んでいる組織が少なくありません。結果として、事故や不祥事が起こると、品質保証体制の再構築、ガバナンスの強化、コンプライアンス教育の徹底などが叫ばれますが、短期的・局所的な取り組みに終わっているケースもあります。また、経営環境の変化に対応した新たなビジネスモデルの創出やコトづくりが叫ばれていますが、一部の人の活動から抜け出せず、組織としての力を引き出せていないケースもあります。

他方、デミング賞などの品質賞を受賞している組織、TQM（総合的品質管理）、安全管理に熱心に取り組んでいる組織の取り組みを見ると、「マネジメントが行動を生み出し、行動が意識・態度を変える」ということを強く感じます。改善や管理、価値創造を経験したことのない人にその大切さを理解してもらうのはむずかしいのですが、具体的な活動を通して効果を実感した人は、改善や管理、価値創造に自分から積極的にかかわるようになります。また、そのような経験を持った人達が連携することで組織として大きな力を発揮します。このような事例を見ると、使命や目指す姿、大切にしたい価値観などを共有した上で、行動するための場を設けること、全従業員を巻き込んだ活動を推進することが文化を変える重要なポイントのように思われます。

本シンポジウムでは、一人ひとりの行動を変えることに取り組み成果をあげている組織の実践例を参考に、各組織で行われている、価値創造・品質保証・安全確保に寄与する組織文化をつくる取り組みを考えたいと思います。顧客満足・安全・安心のためには一人ひとりがどんな行動を取る必要があるのか、考え方・価値観が多様化する中、一人ひとりの行動を変え、組織の持つ能力を引き出すためには、どのような取り組みが求められるのか、そのような取り組みの必要性を共有し、組織として実践・継続するためには何が必要なのか、などについて議論したいと思います。

プログラム		開催期日：2020年12月3日(木)～12月5日(土) 会 場：大磯プリンスホテル	
月 日	時 間	科 目	講 演 者
12/3 (木)	19:30～20:40	<特別講演> 三菱電機における社会課題解決による価値創出と品質経営	山西 健一郎 氏 三菱電機(株) 特別顧問
	20:40～21:00	質疑・応答	
	21:00～22:00	GD（自己紹介）	
	22:00～23:00	談話室（自由参加）	
12/4 (金)	8:30～8:40	主催者挨拶	佐々木 真一 (一財)日本科学技術連盟 理事長
	8:40～9:20	<基調講演> 価値創造・品質保証・安全確保に寄与する人の行動とそれを生み出す組織のマネジメント	中條 武志 氏 中央大学 教授 ※110QCS主担当組織委員
	9:20～10:30	<講演1> しぶとい日本のものづくりへ ～組織能力向上と仕事の変革～	永田 理 氏 トヨタ自動車九州(株) 代表取締役社長
	10:30～10:40	質疑・応答	
	10:40～11:00	昼食・休憩	
	11:00～12:10	<講演2> 全員参加による付加価値のある売場の創出	原 和彦 氏 アクシアル リテイリング(株) 代表取締役社長
	12:10～12:20	質疑・応答	
	12:20～13:10	昼食・休憩	
	13:10～14:20	<講演3> ANAの安全文化醸成の取り組み	田中 龍郎 氏 panda Flight Academy(株) 顧問
	14:20～14:30	質疑・応答	
	14:30～14:45	休憩	
	14:45～15:55	<講演4> パナソニック コネクティッドソリューションズ社の企業変革の取り組み(仮題)	樋口 泰行 氏 パナソニック(株) 代表取締役 専務執行役員 コネクティッドソリューションズ社 社長
	15:55～16:05	質疑・応答	
	16:05～16:15	GDの趣旨説明	中條 武志 氏
	16:15～17:50	GD(1)	
	18:00～19:00	夕食	
	19:10～21:00	GD(2)	
	21:00～23:00	談話室（自由参加）	
12/5 (土)	8:30～9:45	GD報告(9分×8班 ※予備3分)	司会：中條 武志 氏 報告：各班リーダー
	9:45～10:00	休憩	
	10:00～11:30	総合討論	
	11:30～11:40	第110回 品質管理シンポジウム まとめ	中條 武志 氏
	11:40～12:00	次回(111回)品質管理シンポジウム案内、連絡事項	鈴木 和幸 氏 電気通信大学名誉教授、特任教授 111QCS主担当組織委員
	12:00～	昼食・解散	

※GD：グループ討論の略称。

※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。

※組織名・役職は、2020年9月25日時点の表記になっております。

第110回 品質管理シンポジウム 講演概要

12/3 (木) 特別講演

三菱電機における社会課題解決による 価値創出と品質経営

山西 健一郎氏 三菱電機(株) 特別顧問

企業を取り巻く環境は、急激な変化が続いています。しかし、いかに時代が移り変わっても、決して変えてはならないのが、企業倫理・遵法精神を徹底し、品質や環境問題などに妥協することなく取り組む姿勢です。三菱電機におけるこうした姿勢の出発点は、1921年の創業時に制定した「経営の要諦」であり、ここには「社会の繁栄に貢献する」「品質の向上」「顧客の満足」などが記されていました。その精神は、現在の企業理念、「技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献する」と7つの行動指針に受け継がれています。講演では、社会課題の解決と価値創出を追求するSociety 5.0実現の取組を通じて、SDGsの目標達成への貢献を目指す当社活動の事例を、品質経営に必要な視点、不可欠な要素を交えて紹介します。



12/4 (金) 基調講演

価値創造・品質保証・安全確保に寄与する人の行動と それを生み出す組織のマネジメント

中條 武志氏 中央大学 教授

様々な分野における事故や不祥事、顧客に感動を与える新製品・新サービスの成功例などを見ると、その殆どに人の行動が関係していることに気づきます。このような人の行動を生み出すものは何なのでしょう。また、一人ひとりが望ましい行動を取れる組織をつくりあげるためには、どのようなマネジメントを実践するのがよいのでしょうか。さらに、人が変わり経営環境が変わる中、そのようなマネジメントを継続するためには何が必要なのでしょう。いくつかの事例をもとに、価値創造・品質保証・安全確保に寄与する人の行動とそのような行動を生み出す組織のマネジメントとの関係について論じたいと思います。



12/4 (金) 講演 1

しぶとい日本のものづくりへ ～組織能力向上と仕事の変革～

永田 理氏 トヨタ自動車九州(株) 代表取締役社長

トヨタ自動車九州はトヨタ自動車の100%出資子会社で、福岡県でレクサス車を生産しています。自動車産業はCASEやMaaSといった大きな変革期にきています。また社会全体が自然災害や感染症などの苦難に直面する中で、雇用維持・経済復興に貢献する役割を果たし続けたいと願っています。

このような変化や困難を乗り越えるために、弊社では組織能力の向上と仕事の変革に取り組んできました。昨年のデミング賞大賞受賞後の変化を中心に、組織能力向上と仕事の変革についてご紹介します。



12/4 (金) 講演 2

全員参加による付加価値のある売場の創出

原 和彦氏 アクシアル リテイリング(株) 代表取締役社長

当社グループはスーパーマーケット「原信」「ナルス」「フレッセイ」129店舗を北陸、北関東にチェーンストア展開しています。経営理念の実現に向けて、TQMを経営の根幹に据え、「判断の基準はお客様」の姿勢で、お客様のご満足の実現を図っています。チェーンストアとしてのマスマリットが付加価値を生み出すには、規模の拡大、機能の拡充、そして人材が必要です。これらをTQMで実現を目指すとともに、人材の育成は教育の充実や働きやすい職場環境の整備を行い、人を大切にする経営を心がけています。



12/4 (金) 講演 3

ANAの安全文化醸成の取り組み

田中 龍郎氏 panda・Flight・Academy(株) 顧問

ANAはその安全理念に「安全は経営の基盤であり、社会への責務である。」と掲げ、具体的な活動として、安全マネジメントシステムを中心とする確かな仕組みの構築と、役職員一人ひとりの責任ある誠実な行動を求めています。この「仕組み」と「行動」は、これらを育む土壌とも言うべき健全な「安全文化」があってこそ実現し、組織全体の安全の活動がうまく機能するようになります。また航空機を安全に運航し、社会の信頼を得るためには、運航会社だけではなく航空機メーカーと規制当局を含む三者それぞれの組織、あるいは組織間の連携における「仕組み」と「行動」が重要であり、そこにはやはり「安全文化」が大きな影響を及ぼします。本講演では、安全(=事故の未然防止)・安心(=社会の信頼)のために求められる仕組みと行動とはどういうものか、これらの土壌たる安全文化をどのように醸成しているのかについて、ANAを中心にメーカーの事例も含めてご紹介します。



12/4 (金) 講演 4

パナソニック コネクティッドソリューションズ社の 企業変革の取り組み(仮題)

樋口 泰行氏 パナソニック(株) 代表取締役専務執行役員

パナソニックで法人向けビジネス(BtoB事業)を担当するコネクティッドソリューションズ社で企業変革にチャレンジしています。2018年に創業100周年を迎えたパナソニックが、次の100年もお客様と共に発展し続ける企業であり続けるためには、経営者も従業員も、誰もがオープンに意見を交わし合い、正しいことを正しく実行できるフェアでフラットな「健全なカルチャー」が不可欠です。お客様の変化や世の中の変化に対する感度を高め、健全なカルチャーだからこそ生み出される衆知を集め、お客様のお困りごとを解決していくこと。これこそが従業員の働きがいや生きがい、幸福に繋がると確信し、従業員と共に様々な取り組みを行っています。



110QCSグループ討論

テーマ・趣旨・論点

第1班	価値創造・品質保証・安全確保に寄与する組織文化をつくる上でトップが果たすべき役割 ■リーダー：荒木 孝治（関西大学 商学部 教授）・遠藤 秀信（㈱リコー 顧問） 趣旨 顧客価値・品質保証・安全確保に寄与する組織文化をつくる上では、トップのリーダーシップが大きく影響します。経営環境が激変する中、組織として持続的に発展していくためには何が重要なのか、顧客満足・安全・安心を目指して一人ひとりの行動を変え、組織の持つ能力を引き出すためには何が必要なのか、人が変わり経営環境が変わる中、そのような取り組みに対する思いを共有し、組織として継続・継承するためには何が必要なのかについて、トップが果たすべき役割を中心に議論します。	論点 ① 経営環境が激変する中、組織として持続的に発展していくためには何が重要なのか。 ② 顧客満足・安全・安心を目指して一人ひとりの行動を変え、組織の持つ能力を引き出すためには何が必要なのか。 ③ 人が変わり経営環境が変わる中、そのような取り組みに対する思いを共有し、組織として継続・継承するためには何が必要なのか。
第2班	価値創造に寄与する組織文化 ■リーダー：丸山 一彦（和光大学 経済経営学部 経営学科 教授）・鈴木 浩佳（トヨタ自動車㈱ モノづくり技術開発部 企画統括室 主査） 趣旨 使用者・利用者に感動を与えるような製品・サービスが生まれた裏側を見ると、そこには顧客・社会の隠れたニーズを把握し、満たそうと努力した人の行動があります。価値創造に寄与するために組織の構成員一人ひとりが持つべき意識・態度、取るべき行動は何か、そのような意識・態度・行動を擁する組織文化をつくるためにはどんな取り組みが求められるのか、人が変わり経営環境が変わる中、取り組みの必要性を共有し、組織として継続・継承するには何が必要なのかについて議論します。	論点 ① 価値創造に寄与するために組織の構成員一人ひとりが持つべき意識・態度、取るべき行動は何か。 ② 価値創造に寄与する組織文化をつくるためにはどんな取り組みが求められるのか。 ③ 人が変わり経営環境が変わる中、取り組みの必要性を共有し、組織として継続・継承するには何が必要なのか。
第3班	品質保証に寄与する組織文化 ■リーダー：光藤 義勝（元 文化学園大学 生産工学研究室 特任教授）・井手 信（㈱キャタラー Executive Adviser） 趣旨 品質に関わるトラブルや不祥事の事例を見ると、その多くには起因となった人の行動（うっかり間違えた、まあ大丈夫だろうと意図的に守らなかったなど）があります。品質保証に寄与するために組織の構成員一人ひとりが持つべき意識・態度、取るべき行動は何か、そのような意識・態度・行動を擁する組織文化をつくるためにはどんな取り組みが求められるのか、人が変わり経営環境が変わる中、取り組みの必要性を共有し、組織として継続・継承するためには何が必要なのかについて議論します。	論点 ① 品質保証に寄与するために組織の構成員一人ひとりが持つべき意識・態度、取るべき行動は何か。 ② 品質保証に寄与する組織文化をつくるためにはどんな取り組みが求められるのか。 ③ 人が変わり経営環境が変わる中、取り組みの必要性を共有し、組織として継続・継承するには何が必要なのか。
第4班	安全に寄与する組織文化 ■リーダー：棟近 雅彦（早稲田大学 理工学術院 教授）・新倉 健一（前田建設工業㈱ 安全・品質・環境監査部 安全・環境グループ グループ長） 趣旨 安全が他の経営要素に比べてマネジメントすることが難しいのは、不安全であることが見えにくく、表に現れてきたときは大事故になる場合が多いことです。安全確保に寄与するために組織の構成員一人ひとりが持つべき意識・態度、取るべき行動は何か、そのような意識・態度・行動を擁する組織文化をつくるためにはどんな取り組みが求められるのか、人が変わり経営環境が変わる中、取り組みの必要性を共有し、組織として継続・継承するためには何が必要なのかについて議論します。なお、安全の対象は、「労働者」「製品・サービス」の双方を包含します。	論点 ① 安全に寄与するために組織の構成員一人ひとりが持つべき意識・態度、取るべき行動は何か。 ② 安全に寄与する組織文化をつくるためにはどんな取り組みが求められるのか。 ③ 人が変わり経営環境が変わる中、取り組みの必要性を共有し、組織として継続・継承するには何が必要なのか。
第5班	組織の体制・仕組みの工夫による組織文化の醸成 ■リーダー：高橋 勝彦（広島大学 大学院 先進理工学系科学研究科 電気システム制御プログラム生産システム工学研究室 教授）・古谷 健夫（㈱クオリティ・クリエーション 代表取締役） 趣旨 組織を構成する一人ひとりの意識・態度・行動の総体としての文化を醸成し、また変革する上では、組織の体制・仕組みを工夫し、具体的な活動を推進することが大切です。考え方・価値観が多様化する中、一人ひとりの行動を変え、組織の持つ能力を引き出すためには、どのような体制・仕組みをつくり、どのような活動を推進するのがよいのか、様々な経営要素（SLQDC）に関する体制・仕組み・活動をどう統合していくのか、人が変わり経営環境が変わる中、体制・仕組みを工夫し、具体的な活動を推進する必要性を共有し、組織として継続・継承するためには何が必要なのかについて議論します。	論点 ① 一人ひとりの行動を変え、組織の持つ能力を引き出すためには、例えば方針管理や日常管理の展開において、どのような体制・仕組みをつくり、どのような活動を推進するのがよいのか。 ② 様々な経営要素に関する体制・仕組み・活動をどう統合・連携させていくのか。 ③ 人が変わり経営環境が変わる中、体制・仕組みを工夫し、組織文化の醸成や変革につながる具体的な活動を推進する必要性を共有し、組織として継続・継承するためには何が必要なのか。
第6班	人材育成の工夫による組織文化の醸成 ■リーダー：永田 靖（早稲田大学 創造理工学部 経営システム工学科 教授）・中村 聡（トヨタ自動車九州㈱ TQM推進室） 趣旨 組織を構成する一人ひとりの意識・態度・行動の総体としての文化を変える上では、構成員一人ひとりに対する教育を行い、人材育成を図ることが大切です。考え方・価値観が多様化する中、一人ひとりの行動を変え、組織の持つ能力を引き出すためには、どのような人材育成の取り組みを行うのがよいのか、様々な経営要素（SLQDC）に関する人材育成の取り組みをどう統合・連携させていくのか、人が変わり経営環境が変わる中、人材育成の必要性を共有し、組織として継続・継承するためには何が必要なのかについて議論します。	論点 ① 一人ひとりの行動を変え、組織の持つ能力を引き出すためには、どのような人材育成の取り組みを行うのがよいのか。 ② 様々な経営要素に関する人材育成の取り組みをどう統合・連携させていくのか。 ③ 人が変わり経営環境が変わる中、人材育成の必要性を共有し、組織として継続・継承するためには何が必要なのか。
第7班	改善活動の推進による組織文化の醸成 ■リーダー：西 敏明（岡山商科大学 経営学部 経営学科 教授）・鬼頭 靖（アイシン精機㈱ オールアイシンTQM推進センター長） 趣旨 組織を構成する一人ひとりの意識・態度・行動の総体としての文化を変える上では、構成員全員に具体的な活動に参画してもらうこと、そのような中で達成感を感じ、やる気をもってもらうことが大切です。考え方・価値観が多様化する中、一人ひとりの行動を変え、組織の持つ能力を引き出すためには、どのような改善活動を展開するのが有効なのか、様々な経営要素（SLQDC）に関する改善活動、様々な部門における改善活動をどう統合・連携させていくのがよいのか、人が変わり経営環境が変わる中、改善活動の必要性を共有し、組織として継続・継承するためには何が必要なのかについて議論します。	論点 ① 一人ひとりの行動を変え、組織の持つ能力を引き出すためには、どのような改善活動を展開するのが有効なのか。 ② 様々な経営要素に関する改善活動、様々な部門における改善活動をどう統合・連携させていくのがよいのか。 ③ 人が変わり経営環境が変わる中、改善活動の必要性を共有し、組織として継続・継承するためには何が必要なのか。
第8班	組織文化の評価・診断と結果の活用 ■リーダー：渡辺 喜道（山梨大学 大学院 総合研究部 教授）・酒井 和憲（㈱東陽テクニカ 顧問） 趣旨 組織を構成する一人ひとりの意識・態度・行動の総体としての文化を変えるためには、それぞれの組織における文化の状況を把握し、その結果に基づいて従来の取り組みを見直すことが大切です。これはパートナー、関連企業など、多くの組織が連携・協力してバリューチェーンを構成している場合には特に重要な意味を持ちます。把握すべき組織文化とは何か（人の意識・態度か、行動か）、その意味合いの変化を明らかにしながら、組織を超えて互いの組織文化を共有しバリューチェーン全体の成果を高めるための方法を議論します。	論点 ① 把握すべき組織文化とは何か（人の意識・態度か、行動か）、その意味合いに変化はあるか。 ② 組織文化を評価・診断する上ではどのような方法が役立つのか。 ③ バリューチェーン全体の成果を高めるために評価・診断結果をどのように活かすのがよいのか。

※ライブ配信参加の場合、グループ討論には参加できません。

※各班10名程度を定員としております。先着順となりますので、第1希望の班が定員に達した場合、第2希望とさせていただきます。

※組織名・役職は、2020年9月25日時点の表記になっております。

〔確認ください!〕第110回品質管理シンポジウムご参加にあたって

より効果的な議論を行うため、参加の皆様と以下の通り用語の定義と考え方を共有した上で進めます。

■ 品質・・・顧客及び社会のニーズを満たす度合い

■ 品質保証・・・顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動

⇒「品質」は、モノの出来栄のことではない。

■ サービス・ドミナント・ロジック・・・価値は、顧客がモノを使いこなすことによって生まれる

※顧客の使用するプロセスを含めなければ品質保証は完結しない

■ グッズ・ドミナント・ロジック・・・価値は、工場出荷時点で「モノ」に備わっている

※提供側のプロセスのみで品質保証は完結する

⇒ハード・ソフトは価値を実現するための道具にすぎず、「価値」は、顧客が道具を使いこなすことによって生まれる。「価値」を考える際は、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何ができれば喜ぶのか?」という着眼点で考える。

品質管理シンポジウム会員にご入会ください!

メリット1≫ 講演（トップランナー企業）から、TQMの推進・動機づけに役立つ情報が得られます。

メリット2≫ グループ討論等で、他社の考え、推進事例等を議論し、課題解決への糸口を見つけられます。

メリット3≫ 参加者同士のコミュニケーションを深める場を多く設定しており、品質経営推進企業幹部との人脈が形成されます。

入会費用▶企業会員：1口につき年額181,000円（税抜き） 団体会員：1口につき年額107,000円（税抜き）

※2020年度から、年会費を改定させていただきます。

※日科技連賛助会員とは異なります。QCS独自の会員制度です。ご入会は、随時受付けております。

品質管理シンポジウム 会員企業・団体

※2020年9月現在、50音順 122社

1 アート金属工業 (株)	32 澤藤電機 (株)	63 東久 (株)	94 日野自動車 (株)
2 (株) アーレスティ	33 サンデンシステムエンジニアリング (株)	64 東レ (株)	95 ヒロセ電機 (株)
3 アイシン・インフォテックス (株)	34 サンデンホールディングス (株)	65 TOTO (株)	96 (株) フジクラ
4 アイシン・エイ・ダブリュ (株)	35 (株) シーヴィテック	66 トクラス (株)	97 富士ゼロックス (株)
5 アイシン・エイ・ダブリュ工業 (株)	36 (株) GSユアサ	67 (一社) 富山県経営者協会	98 富士ゼロックスマニファクチャリング (株)
6 アイシン機工 (株)	37 (株) ジーシー	68 トヨタ自動車 (株)	99 富士電機 (株)
7 アイシン軽金属 (株)	38 (株) ジーシーデンタルプロダクツ	69 トヨタ自動車九州 (株)	100 フジミ工研 (株)
8 アイシン精機 (株)	39 JFEスチール (株)	70 トヨタ自動車東日本 (株)	101 フタバ産業 (株)
9 愛知製鋼 (株)	40 (株) ジェイテクト	71 トヨタ自動車北海道 (株)	102 (株) プリチストン
10 アイホン (株)	41 芝浦機械 (株)	72 (株) 豊田自動織機	103 べんてる (株)
11 (株) 麻生	42 清水建設 (株)	73 トヨタ車体 (株)	104 (株) 保志
12 (株) アドヴィックス	43 JUKI (株)	74 豊田鈦工 (株)	105 本田技研工業 (株)
13 (株) イシダ	44 シロキ工業 (株)	75 豊田バンモップス (株)	106 前田建設工業 (株)
14 NECプラットフォームズ (株)	45 (株) SUBARU	76 トヨタ紡織 (株)	107 (株) 前田製作所
15 (株) FTS	46 住友理工 (株)	77 トヨタホーム (株)	108 マツダ (株)
16 (株) MCシステムズ	47 積水化学工業 (株)	78 長津工業 (株)	109 (株) マルヤスエンジニアリング
17 エリーパワー (株)	48 (株) セキソー	79 新潟ダイヤモンド電子 (株)	110 丸和電子化学 (株)
18 大塚化学 (株)	49 ソニーセミコンダクタソリューションズ (株)	80 (株) ニコン	111 三島食品 (株)
19 岡谷電機産業 (株)	50 ダイキン工業 (株)	81 日華化学 (株)	112 三菱電機 (株)
20 (株) オティックス	51 (株) 大広	82 (株) 日科技連出版社	113 (株) 村田製作所
21 オムロン (株)	52 ダイハツ工業 (株)	83 日産自動車 (株)	114 (株) メイドー
22 鹿島建設 (株)	53 大豊精機 (株)	84 日産車体 (株)	115 名北工業 (株)
23 関西電力 (株)	54 ダイヤモンド電機 (株)	85 日本精工 (株)	116 (株) 安川電機
24 (株) キャタラー	55 大和リース (株)	86 日本電気 (株)	117 (株) ユニバンス
25 光洋サーモシステム (株)	56 (株) 竹中工務店	87 (株) 日本科学技術研修所	118 楽天 (株)
26 コーセル (株)	57 中国化薬 (株)	88 日本商工会議所	119 (株) リコー
27 小島プレス工業 (株)	58 (株) 千代田グラビヤ	89 日本特殊陶業 (株)	120 リコーエレメックス (株)
28 コニカミノルタ (株)	59 DMG森精機 (株)	90 パナソニック (株)	121 リコーテクノロジーズ (株)
29 (株) 小松製作所	60 テックスエンジンソリューションズ (株)	91 パナック (株)	122 (株) 良品計画
30 (株) コロナ	61 (株) デンソー	92 (株) 羽生田製作所	
31 サラヤ (株)	62 (株) 東海理化	93 日立オートモティブシステムズ (株)	

参加要領 ※詳細は、開催要領をご確認ください。(宿泊費等)

開催日時 2020年12月3日(木) 19:30~12月5日(土) 12:00

(12月3日受付開始17:00~、夕食18:00~)

第110回品質管理シンポジウムは、9月25日現在の判断では開催を予定しています。ただし、新型コロナウイルスの感染拡大等、都道府県・自治体または保健部局の協力要請等により、中止とする場合がございます。

最新情報は、適宜webサイトでご案内を申し上げますとともに、連絡担当者様にe-mail等で別途ご連絡いたします。

会場 大磯プリンスホテル

〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷546 TEL: 0463-61-1111 FAX: 0463-61-6281

■参加対象 企業の役員、上級管理職の方々

■参加方法・参加費 (税抜き)

●集合参加 (大磯プリンスホテル)

【QCS企業会員・団体会員のみ】

ソーシャルディスタンスの確保、3密の回避の観点から、**各社1名様に限定**させていただきます。

(トップ無料枠、通常枠のいずれかとなります)

●ライブ配信参加

【QCS企業会員・団体会員】

・1名無料

・2人目以降、40,000円/1人

【一般参加】

・90,000円/1人

※ライブ配信参加の場合、グループ討論には参加できません。

※ライブ配信の詳細(配信プラットフォーム、推奨環境等)は、改めてご案内いたします。

●集合参加の場合の付帯費用

・宿泊費は、開催要領をご確認ください。

・食事代(12月3日夕、12月4日朝・昼・夕、12月5日朝・昼)は参加費・宿泊費に含まれています。尚、宿泊費、交通費はご負担ください。

※大磯プリンスホテルは全館禁煙です。喫煙禁止場所(各居室等)での喫煙が確認された場合、50,000円のクリーニング代を請求いたします。(電子タバコも禁止です)



集合会場：大磯プリンスホテル

■シンポジウム申込方法

QCS専用Webサイトからお申し込みください。http://www.juse.jp/qcs/

一次申込期日：10月19日(月)とさせていただきます。

最近の主な講演者

(組織名・役職は講演当時の表記になっております)



第109回
楽天(株)
副社長執行役員 COO
百野 研太郎氏



第108回
(株)麻生
代表取締役会長
麻生 泰氏



第107回
コニカミノルタ(株)
代表執行役社長 兼 CEO
山名 昌衛氏



第106回
(株)日立製作所
取締役 代表執行役 執行役社長 兼 CEO
東原 敏昭氏



第105回
マツダ(株)
代表取締役会長
金井 誠太氏



第103回
トヨタ自動車(株)
取締役社長
豊田 章男氏

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略)

(組織名・役職は2020年3月1日時点の表記になっております)



猪原 正守
大阪電気通信大学 教授



鈴木 和幸
電気通信大学名誉教授・
特任教授



津田 純嗣
(株)安川電機
代表取締役会長



中條 武志
中央大学 教授



宮本 眞志
トヨタ自動車(株)
カスタマーファースト推進本部 本部長
Global Chief Quality Officer

問い合わせ：一般財団法人日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当(安随/糸柳/池田)

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 1-2-1

TEL: 03-5378-1215 FAX: 03-5378-9842

E-mail: tqmsemi@juse.or.jp